ジャパン・コスメティックセンター

スタートアップ企業の募集を開始

佐賀県とジャパン・コスメティックセンターは、国内最大級のオープンイノーションプラットフォームを運営するＣｒｅｗｗとともに、オープンイノベーションによる新規事業の創出を目的とする「ＳＡＧＡＮ ＢＥＡＵＴＹ＆ＨＥＡＬＴＨＣＡＲＥ ＯＰＥＮ ＡＣＣＥＬＥＲＡＯＲ ２０２０」を８月31日から開始した。

２０１３年、佐賀県は地方創生の取り組みとして、唐津市・玄海町を中心とした部九州に美と健康に関するコスメティック産業を集積するべく、産学官が連携ＪＣＣを設立。以来、「コスメティック構想」を推進している。

今回、同プラグラムは佐賀県に拠点を置く企業４社（クレコス、サガテレビ三栄興産、ブルーム）と共同で実施する。４社の経営資源や地域資源と、ＪＣＣこれまで培ってきた美容・健康分野の企業支援への知見や国内外のネットワーを、スタートアップ企業の斬新なアイデア・技術・ノウハウと掛け合わせることで、佐賀県から世界を変えるビューティ＆ヘルスケア事業の創出を目指す。

プログラムの開始に合わせ、ＣｒｅｗｗのＨＰ内に専用Ｗｅｂサイトをオープンし、スートアップ企業のエントリーを開始する。

佐賀県企業４社とスタートアップ企業は、シナジー確認から協業までの最終ゴールに向けて、簡単かつ迅速な選考プロセスの下、強力な連携機会の発掘が可となる。

花王

バイオミメシス ヴェールディフューザーのレンタル開始

花王は、９月４日より「Ｒｅｎｔｉｏ（レンティオ）」を通じ、「エスト バイオミメシス ヴェールディフューザー」（機器）のレンタルを開始している。

レンティオのＷｅｂサイトから、商品を選び注文するだけで、美容液、化粧液、化粧道具も併せた４点が自宅に届き、使用ステップにそってすぐに試すことができる。さらに、利用後の返却は、近くのコンビニエンスストアで簡単に行える。

「エスト バイオミメシス ヴェール」は、これまで「エスト」取り扱いの百貨店と花王の直営店でのみ試すことができたが、今回の新たなサービスの導入により、顧客の生活シーンの中で、多くの人に気軽に試してもらうことができるようになる。エステなどで肌のケアをしている美容意識の高い人や、自宅での美容時間の充実を考える人などに推奨していく。

あわせて、レンタルサービスを利用した人には、花王直営店「ＢＥＡＵＴＹ ＢＡＳＥ ｂｙ Ｋａｏ」のスタッフによる、無料のオンラインレッスン「エスト バイオミメシス ヴェール オンライン レッスン」を実施する。

アイル　清長

ＢｔｏＢ物販企業向けの無料オンラインセミナーを開催

企業向け業務管理システムを開発・提供するアイルと、クラウド型物流アウトソーシングサービスなどを提供する清長は９月24日、受注・出荷業務の煩雑さに悩みを抱えるメーカーや卸売業などの企業に向けて、「システム一元化で残業解消やテレワークの実現」と題したオンラインセミナーを無料で開催する。

新型コロナウイルスの影響により、企業のテレワーク化が進んでいる一方で、電話やＦＡＸによる受注作業や出荷作業により、出社を余儀なくされる企業も少なくない。Ｗｉｔｈコロナ時代では、注文受付から受注・出荷・納品まで全ての作業をシステムで一元管理し、場所に左右されずに行うことが企業に求められている。

同オンラインセミナーでは、物流アウトソーシング・基幹システム・Ｗｅｂ受注のプロ集団が、パネルディスカッションを通し、コロナ禍で起こった市場の変化に対応していける企業とは何かを考察し、変化に対応するための次世代型ＢｔｏＢ業務を実際の事例を交えながら紹介するという。

私の

Ｈ＆Ｂ日記

プラスの変化へ

コロナ禍の長期化で新たな需要が生まれている。その１つが「ドライブインシアター」だと知り、胸が騒いだ。三密を回避しながら、家族をはじめ親しい人たちと気軽に映画を楽しめるとして、再脚光を浴びているという。

日本で流行ったときされる１９９０年前後、私はその盛り上がりを知らずに少年時代を過ごしたが、醤油の町で知られる千葉某所の商業施設敷地内に設置されたドライブインシアターにてその快適さを体感し、月に２～３回、車を30～40分走らせて通い詰めた時期があった。場内はいつも車がまばらで、自然と自分専用のようなスペースができた。

共感時代を迎えた今、感動を共有すべきとの考えが浸透し、上映中も賑やかなことがあるようだが、当時は映画館内の照明が暗くなれば、会話をする者へ冷たい視線を送ることが許され、子どもたちは、そうした大人たちの緊張感を敏感に感じ取り、楽しみにしていた山盛りのポップコーンを、口いっぱいに頬張りたいのを堪え、一粒ずつ舐めるように噛みしめながら食べる方法を会得した。

そのような暗黙のマナーに縛られ、私は誰かと連れ立って映画館へ行くことに楽しさを見出せずにいた。もちろん青春期は、これが大人の階段かと腹を据え、デートの定番として実践してきたが、あまりいい記憶はないか。

ドライブインシアターは、そんな私に誰かと一緒に映画鑑賞することを価値づけた。そして、周囲の目を気にせずに巨大スクリーンで鑑賞できるという解放感は、自由に動けないストレスを抱える消費者の心にも入り込む。

親世代が楽しんだ文化を子どもたちも一緒に楽しめ、新たな家族との時間を生み出す。コロナとの付き合い方が身についてきた中でプラスの変化にも目が向き始めている。

ちなみに通い詰めたシアターとの別れは意外とあっけないものだった。誘導員から「閉館のお知らせ」と手書きの紙を手渡された。深い喪失感に襲われたのを今でも覚えている。（菅）